

北鎌尾根 プロローグ!?[編集する](#)

2010年07月27日 01:56 [友人の友人まで公開](#)

14 view



(ひとまず先に、フォトアルバムを公開してみました、)

行ってきました、北鎌尾根!! 🙌

自分の非力さを思い知らされる結果となりましたが...

それでも、自分たちのペースで着実に一歩ずつ歩いたこと、サイコーの天気が味方してくれ、無事に下山できたことだけは、たいへん喜ばしいことだと思っております 😊

そして、登山史上、数々のドラマを生んだとされる(!?)北鎌尾根。おれにとっては、長年ただ憧れるしかできなかった偉大なる領域なわけで、そこに足を踏み入れたことは、何らかの形で今後の糧としていきたいです!! 👍

とにかく今回の山行は本当に中身が濃く、大長編ブログになりそうな予感ですが、数回にわたって仕上げます 📝

(本題に入る前に、まずはプロローグからきっちりと。。。🤔)

【プロローグ～北鎌への想い～】

📌 1998年夏、槍ヶ岳登頂を仲間たちと喜んでいたらまさにもその時、突然、山頂の祠の下から顔を覗かせたのが、単独行の登山家。聞けば、祠の裏側に伸びる尾根(＝通称、北鎌尾根)から登ってきたそうだが、地図を開けば、そこに尾根は描かれていても、登山道は記されていない。

登山道とは関係なしに登る登山家がいることを見せつけられた瞬間でもあり、以後、北鎌尾根の存在が、ずっと心に残ってゆくのであった😓

📌 1999年夏、新田次郎の山岳小説『孤高の人』を読む。伝説の登山家、加藤文太郎氏が亡くなったのが、あの北鎌尾根だって!?!

📌 2003年夏、湯俣の天然温泉へ遊びに行った時、見てしまった。「北鎌尾根」を示す標識(⇒上記写真1)。そうか、北鎌尾根の登山口は存在しているんだ!!💡

※しかし、この湯俣からのルートは今では廃道になりかけているらしい。

📌 200?年夏、山岳雑誌『山と溪谷』で、四方八方から槍ヶ岳を攻めようという特集が組まれていたが、なんと北鎌尾根から登るルートが記事になっていた。ということは!? 一般の登山客でも登れるの!? (急に希望の光が射した✨)

📌 2009年夏、槍ヶ岳に11年ぶりに立ち、北鎌尾根を見下ろす。しかし、尾根ははっきりわかっても、登山道らしきものは何も見えない😓(⇒上記写真2)

北鎌尾根、なんなんだ…。💧💧

ただ、ここ数年、実際に北鎌尾根を歩いたことのある登山家に何人も出会ったのも事実。

魅了される。

でも、危険なニオイがする。

今の自分が、一人では行ってはいけない。

それだけは確信していた。

だから秘かに、ガイドを雇うか、一緒に行ける同士を探していた 😞

📎 Yさん&Kさんには、2年前に行方不明となった山仲間がいた。その彼は、北鎌尾根を目指していた。北鎌尾根を目指すからこそ、彼の失踪は、前哨戦として出かけた険しい山(表妙義)での出来事だった。

📎 それからYさんとKさんは、クライミングを始めた。道具も少しずつ揃え、ロープワークも勉強した。それは、彼の搜索活動に積極的に参加するためだった。

そしてその翌年、山中深くに彼の遺体が見つかった。

📎 彼の北鎌登頂の夢を叶えるためにも、遺灰を北鎌尾根に埋めたい。それがYさんの純粋な思いであり、それを思い切ってお遺族に打ち明けると、お遺族は何のためらいもなく了承し、遺灰の一部をYさんに預けた。

その思いが、北鎌尾根へと足を向けさせた。。

【半年前】

昨年、山小屋で知り合った Y さん達と再会したのは、今年 1 月のスキー。一緒に北鎌尾根の DVD を見ながら北鎌へのの思いを語り合い、今年の夏には登ろうと約束した 🍷

【出発 6 日前】

出発 6 日前。Y さん & K さんとトレーニングも兼ねて再会。女峰山に登りながら、北鎌の話进行いろいろする。

「北鎌の噂はいろいろ聞くが、実際は行ってみなければわからない。」本当にそのとおりでと思うし、Y さんの強気な姿勢は頼もしかった。でも、腑に落ちない自分がいた。梅雨明けを気にしていたのは言い訳か!?

【出発 5 日前】

この日もまだまだ乗り気ではなく、再度よく考える。

正直、8 月に登りたかったのである。まだ今の自分には、本格的な夏山への身体が出来上がっていない。それに北鎌に行くなら、妙義でのトレーニングをしておきたかった。(→妙義は先月雨で中止となったままだった。) 他の山でもいいから、もっとロングコースを歩いておきたかった ↓

ここにきて、山仲間のロンと一緒にいけないというのもネックだった。休みが合わない、それは最初からわかっていたことだった。ただ、何となく彼と一緒にいれば一安心、という甘えもあった ↓ ↓

それに、YさんとKさんは、何度かお会いしたことはあるが、実はどれだけの山の技術を持った人なのか、あまりよく知らないのが事実。さらに、二人の山の師匠で、北鎌を踏破済みの登山家が参加できないこともこの日に知らされる。。👇👇👇

この二人とパーティーを組んでいいのだろうか!?! 😞

深夜まで、自問自答は続き、この悩みをYさん達に伝えた📧

【出発4日前】

半ば開き直った👆

週間山岳天気予報に晴れマークが見え始めたからだ。これは、山に呼ばれているのかもしれない…。👆
👆

YさんとKさんそれぞれからメールや電話で連絡をとりあった。前向きな話ばかりだ。それに乗ってみよう、そんな気にもなった。👆👆👆

そして、夜行バスを予約した。地形図とガイドブックも買った。

よしっ、戦闘態勢を決め込むぞ!! 🌟

【出発3日前】

職場近くの石井スポーツに寄ってみた。ここには最近、Yさん達の知り合いが転職したそうで、その店員は北鎌踏破済みとのことだった。

不思議なもので、第三者と話をすると、それだけで登頂を宣言した気持ちになる。やっぱり行くしかないのか!?!

せっかくなので、ツェルトを購入した。

最後の体力調整ということで(!?)、バドにも行ってきた🏸

【出発 2 日前】

久々に T-wall(クライミングジム)へ顔を出した。と言っても、壁に登るわけではなく、ロッカーに置きっぱなしだったハーネスを取りに行っただけ。Yさん達と、ハーネスも非常装備として持っていこうと話し合っただけだったのだ。

帰宅後、パッキングに悩んだ。とにかく荷物を軽くしたい。でも万一のときのための非常装備は絶対に必要だ…。

結局、40 リットルのザックを選び、詰められるものを詰めていく。

深夜、mixi にもちょっとした意気込みを載せておいた👊

【出発前日】

定時で職場を出て、向かった先は散髪屋さん。なんとなく、さっぱりしたかった。神聖なる山に向かうのだし!!

そのせいで帰宅が遅れたが、バタバタとご飯を食べながら、母親とも会話を交わす。母親には、なぜだか山岳保険の話までしてしまった😓

そして、シャワーを浴び、身を清めたところで!!✨

出発!!🚗➡️

つづく。。

北鎌尾根① [編集する](#)

2010年07月28日 02:46 [友人の友人まで公開](#)

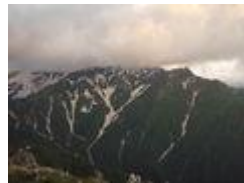
20 view



《画像 1》ごきげん♪



《画像 2》燕より、見据える。



《画像 3》夕暮れの北鎌尾根。槍は姿を隠す。

【7月17日(土)】

穂高駅発の乗り合いタクシーの中から、北アルプスの稜線が確認できた!!👂👂 ドライバーさんいわく、昨日まではまったく見えなかったのだから、これは梅雨明けに間違いないと断言。やったね!!👌

タクシーで予定よりも早く到着できたおかげで、燕山荘で合流予定の Yさんと Kさんとも、中房温泉付近でタイミング良く会う。本日はどうぞよろしくお願いします🍷🍷

さて、本日は北鎌尾根への抜け道に近づく行程。

登り始めの合戦尾根は2度目。1度目は学生の時だが、あまり記憶にない。覚えているのは、後半、暑さと重さでばてたときに、先輩(Qさん)と一緒に歩いてくれたことくらい...💧💧

あらためて新鮮な気持ちで登り始める👣

北アルプスの三大急登の一つと言われているわりには、とても整備され、多くの登山客で賑わっている。適

度な場所にベンチが設けられていたり、休憩するペースも掴みやすい。また、職場の新人研修で登りに来たという若者十数名の団体もいた。(なかなかいいねえ、こういう職場!! 👍)

ちなみに、先日の「ためしてガッテン」で、演歌を歌えるくらいの余裕を持ったスピードが適度だと放送されたそうで、おれが演歌と聞いてまず思い浮かんだのが八代亜紀の「舟唄」だった。

♪お酒はぬるめの 爛がいい～🎵

(ww よ、おまえは飲めないくせに... 🐦)

演歌メドレーのおかげで、順調に合戦小屋に到着。

この名物が



すいか!! 🍉

8分の1のカットで800円。どう考えてもぼろ儲けだろうが、登山客には願ってもないご褒美で、飛ぶように売れていく。

一瞬買おうかどうか迷いつつ...、12年前は高根の花として眺めていただけだったし、えーい、オトナ買いだ～!! 🍉

というわけで、1カットをさらに3等分してもらい、3人で食べる。ライフポイント回復!! 📈📈📈

合戦小屋から先は、木々も低くなり、空が近くなる。



ということは、遮るものがない分、暑い... 🥵💧

燕山荘は稜線上にあり、そこに着いた瞬間、ガスが抜けた。

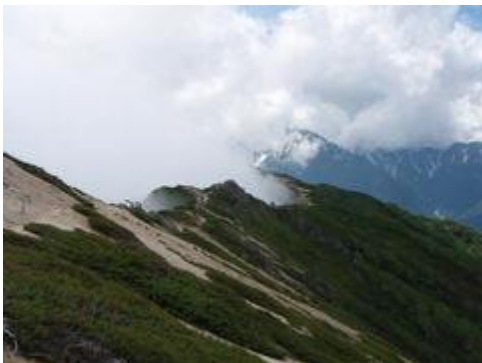


青空の中、際立つ北アルプスの山々。



奇岩の多い燕岳もうきうきで往復♪

次なる目的地、大天井岳へ。



北アルプス表銀座。ここをてくてく歩きます 🗺️



高山植物の女王、コマクサ⁺⁺



大天井岳は薄茶けた山で、遠方からでも区別がつきやすい!?
どっしりとした山でした。

その後、本日宿泊する大天井ヒュッテ[🏠]に到着。北鎌尾根情報を更新している小屋番の小池さんが出迎えてくれた。思ったよりも小柄な人だったが、相当北鎌尾根には入り込んでいる様子。ひよひよいと身軽に動くのが容易に想像できる[😅]

夕食まで時間もあるので、明日の北鎌尾根への取り付き点まで偵察に行く。ヒュッテから 20 分、登山道と稜線が交差するあたりに、それはあった—— ^{📍👁️}



間違いない、ここだ。

低木に囲まれた、入口。



この秘密の抜け穴を潜り抜けると…、



出た—💡💡



えらく急な下り。

でも予想以上に、トレースはしっかり着いている。ここからいったいどれだけの登山家が北鎌尾根を目指したのだろうか!?

とりあえず、入口がわかっただけでも大収穫。再びヒュッテに戻り、明日に備えよう!!🍗

ちなみに、ヒュッテからの眺めはイマイチと言う声もあるが、ヒュッテから徒歩 10 分強歩けば、そこには 360 度のパノラマを拝める展望台がある。燕や大天井はもちろん、遠方には、剣も、水晶も、五郎も、前穂も、木曾駒らしきものも雲海に見え隠れている✨

そして、明日歩く北鎌尾根も見える。
独標は見えたが、槍ヶ岳は雲の中だった。

いよいよ、明日だ。

★歩行時間

5:55 中房温泉

7:00-7:20 第 2 ベンチ

8:20-8:30 富士見ベンチ

8:50-9:10 合戦小屋 (すいか♪)

10:15-10:35 燕山荘

11:00-11:05 燕岳

11:30-12:00 燕山荘 (昼休憩)

13:05-13:20 大下りを少し登り返した場所

14:10 喜作レリーフ

14:15-14:20 分岐

14:45-14:55 大天井岳

15:20 大天井ヒュッテ

15:40 大天井ヒュッテ

16:00-16:10 貧乏沢取り付き点探索

16:35 大天井ヒュッテ

つづく。

北鎌尾根② [編集する](#)

2010年07月29日 02:51 [友人の友人まで公開](#)

17 view



《写真1》 朝の風景。(天上沢。)



《写真2》 昼の風景。(独標を見上げる!!)



《写真3》 夕方の風景。(独標から見下ろす!!)

【7月18日(日)】

3:00 起床

ヒュッテ内はすでに人の動きがある。本日ここから、何組のパーティーが北鎌を目指すのだろうか!?

トイレがてら外に出てみると、満天の星空⁺⁺⁺⁺⁺ 小屋の立地のせいか、風はほとんどない。今日も好天は間違いない。目指せ、槍ヶ岳!! 🍷👆

3:20

老年で白い立派なひげをたくわえた二人組パーティーが小屋を出発していった。かなり熟練した登山家か!?

3:40 大天井ヒュッテ発

ヘルメットをかぶり、ヘッドランプをつけて、我々も出発。貧乏沢への取り付き点まで約20分の道のり。昨日下見していた分、暗闇の中でも安堵感を覚える 😊

4:05 貧乏沢入口。

先発した白ひげ二人組がお湯を沸かしていた。聞けば、この二人は、以前も北鎌を狙いに来たものの、悪天候のため断念したとのこと。何か熱意が伝わってくる👍
ここで、お互いの健闘を祈りあった後、我々が先に、秘密のトンネルを抜けさせてもらった。



行ってきます!!

そして、秘密のトンネルを抜けると、貧乏沢の下りが始まる。



ここから770mの急な下り。トレースはそれなりに付いている。しかし所々で傾斜がきつく、全体的に振り返れば、藪こぎあり、雪渓あり、渡渉あり。。

基本的には涸れた沢を下るのだが、ガレているので要注意。沢沿い左側の藪の中にはトレースもあるが、所々で見失うことが多い。沢は、後半からは水量が豊富になるので、これまた滑りやすく要注意。

さらに、事前に話は聞いていた雪渓🌨️の下りは、思ったよりも長かった。ここで、例の白ひげ組に追いつかれたが、彼らはアイゼンがないため、雪渓では相当手間取っていた。他方、我々はアイゼンを装着し、距離を一気に稼げたのだが、アイゼンの着け外しの時間を考えると、あまり変わらなかったかも!? 🤔

白ひげ二人組は、我々よりもペースが速いので、結局この付近で抜かされた後は、以後見かけることはなかった。



雪溪、下り中。

雪溪を過ぎた辺りで、単独の女性にも出会った。彼女はとにかく足取りが軽い。すでに仲間たちと北鎌を踏破したことがあり、今回は敢えて単独で狙いに来たとのこと。

やはり、こういうツワモノレベルの人たちが集まる場所なのか、ここは。我々3人は、ただただ羨望のまなざしを向けるのみ👁️👁️



再び、アイゼンを外して、下る、下る、下る。

本当に長い下りだった。後半に入り、一度休憩を入れる話も出たが、なぜだかこの下りの緊張感(&高揚

感!?)を保持したまま歩きたかったので、そのまま歩き通すこと 2 時間 40 分 🚩

6:45 天井沢出合着

振り返れば、本当に長い沢を下ってきたもので...、思わず Kさんと叫び、拍手喝采!! 🎉 この沢に出てからすぐ左に曲がったところで、休憩をとる。



6:45-7:05 休憩。

ここからは天井沢を上流に向かって歩く。ガイドブックには、広い河原の中を自由に歩けると書かれてあったが、水量は多く(沢と言うより、川 🚩)、対岸へ渡るのも一苦勞だった。

7:25-7:40 北鎌沢の出合。再度休憩。

北鎌沢の出合の目印となるケレンはあったが、あまり目立ってはいなかった。ここから今度は標高差 680 m の急登。しかも、ここからは陽射しも強くなる 💧

すでに予定より 1 時間遅れということに気づくが。。。でも「焦らずに」が合言葉。登り始めは、北鎌沢の左岸から取り付いたが、その後は左岸や右岸を行ったり来たり。登れるところから登って行く。



とにかく暑かった。Yさんの疲労が出始める。異常な暑さと、ザックの重さが原因だったのかもしれない。それでも、何度か休憩をはさみながら、確実に距離を詰めていった。

ガイドブックでは、北鎌沢の水量は少なく、水は汲めるところで汲むべきだと記載されていたが、この時期はまだまだ雪渓が残っていたためか、水量も豊富。標高約 2200m 地点あたりでも、まだ水が流れていたが、この辺りで心配になり一人 3 リットルずつ、水を汲む。

さらに重たくなるが、れっつだごー!! 🍷👉

この辺りで追いつかれたのが 7 人組パーティー(うち女性 1 人)。



おそらくはツアー団体のように、先頭と最後尾のガイドは何度も北鎌を経験したことがある様子。彼らのペースは遅すぎず速すぎず、しばらくは着いていったが、休憩時間のズレから結局は抜かされた。

さらに特筆すべきが3人組男性パーティー。彼らはなんと、本日未明に中房温泉から歩き始めたそうで、我々と7人組を颯爽と抜かしていった。何という体力💪💪

北鎌沢右俣の中腹では、さらに左右に分かれる分岐があった。3人組は右ルートをとっていたが、我々もこの右ルートに踏み込むと、とにかく尋常でない傾斜の登りとなり、結局、7人組が進んだ左ルートに軌道修正。しかし、3人組を見れば、ザイルを張りながら登って行くではないか。うーん、できる男たちは違う...😓 (→でも、彼らが進んでいく方向は違うような...!?)

10:45 北鎌沢のコル着

やっとこさで680mの急登を終えると、例の7人組パーティーもここで休憩していた。我々はここで昼食。昨日大天井ヒュッテで作ってもらった弁当は、



形が崩れることなく残っていた!!😓

他方、7人組は長い1本のロープでお互いをつなぎ始めた。これは、ここから先、万一誰かが滑落した時は、全員でその人が落ちるのを食い止めるための方法らしい。

しかし、安全のためとはいえ、そういうロープでつながれている限りは、常に一定の距離間隔で歩き続ける必要もあるのだから、常に監視されているというか、好きな時に休んだり、写真を撮ったりできないんだろうなあ、と試してみたり...(おれには合わない登り方!?😓)

11:20 北鎌のコル発

我々も気を取り直して出発。ここからしばらくは低木と灌木帯の中、比較的急登が続くが、手元の高度計では2分に10mのペースで着実に登って行った。順調、順調😊

12:05-12:15 小休憩

この小休憩後、ザックを背負い、いざ出発しようとしたその時、

あれ、何だかおれの調子が狂ってる。。。🤔

Kさん達から「wwの顔色が悪い」と言われ、そう言われるとなおさら気分が悪くなる。😓

まだまだ行ける、という気持ちもあったのだが、「休んでいいんだよ」というお二人の言葉に甘え、遠慮なくしゃがみ込むと、今まで張りつめていた緊張感がなくなり、一気にテンションダウン...📉📉📉📉

12:15-12:55 小休憩が大休憩になる。

日陰で横になる。暑さが原因なのはわかっている。日射病!? 熱中症!? しかし、一度起き上がり、Yさんに頭から水をかけてもらおうと、それがほんの少量でも気持ちよくて、一気に目が覚める🌟🌟まるで、お皿の乾いた河童が元気になるように...📈📈📈

(→これ以後、二人からはカッパと呼ばれることになるのだが。)

でも、Yさん、貴重な水をどうもありがとうございました🙏

そんな最中、突然なんと、早朝貧乏沢で出会った、単独の女性登山家が現れた。なんと彼女は、北鎌沢の出合が分からず、天上沢をかなり上流まで歩いてしまい、かなりの時間をロスしてしまった、とのこと。テンプよく歩いている、意外なところに落とし穴があるのが北鎌なのか!?

それでも、やはり今日中には槍ヶ岳まで辿り着きたいからと、また再び単独で軽快に我々を抜かしていくの

であった。

結局ここで 50 分は休んでしまったが、でもこの休憩が実はかなり憩いの時間となった。Y さん達がどうしても北鎌に登りたいこと、そんな話も聞けたし、その話を聞きながら、僕も僕で思いだすことがあってこっそり涙したりと…。

だから、いつまでも休んでられない!!👊

もちろん、先は長いのだし!!👊

ww 復活!!👊

そして、再び歩き始める。

ここからすぐの P8 は順調に通過し、

13:20 P9 着。

ここは「天狗の腰掛」とも呼ばれ、



テントが張れるスペースがあった。さらには、



そうです、目の前には大きな存在感を放つ、独標(P10)!!

今から、ここを登るのです。

さらに驚いたことに、先程出会った中房温泉発の3人組が、突如後ろからやってきた。先程ザイルを使って登っていたが、どこか特別なポイントを経由して登ったのかと聞いてみると、単純にルートを選び間違えました、とのこと(笑)。

険しいルートと認識しつつも、引き返せないと判断し、ザイルや登はん具を駆使し何とか稜線に出た。そして、笑いながら時間をロスした一、と嘆いている。ほんとにすごいヤツらだ... 👍

ちなみに、彼らの靴は、見ためがごく普通の運動靴(!?)だった。そのうち一人は、おれのトレイルランニング用のシューズと全く同じ。身軽さを重視したのか!?

それに引き換え、おれらはみな軽登山靴。何も登山靴にこだわる必要はなかったかもね、と3人で反省。こういうところも工夫が必要! 📅

さて、彼らに抜いてもらった後、我々も歩き始めると、

13:50-14:05 ここでなんと、まさかの雪渓!!



火照った身体を、冷やしまくり～♪

もう水場はないと思っていたので、まさにオアシス。8月だったらなかったかもしれない雪渓。ここでかき氷をたくさん食べ、ペットボトルに雪を詰めて、飲み水確保!! イェーイ!! 🎉🎉🎉🎉

独標の核心部に近付くにつれ、岩が大きくなっていく。稜線上の直登ルートと、直登を避けるトラバースルートがあり、我々は後者を選ぶ。

崖から飛び出した岩(オーバーハング!?)の下をくぐるような場所もあったが、



話で聞いていたよりは足場もしっかりしており、四つん這いに近い態勢で無事に通過。(でも、岩壁の反対側は、奈落の底…。どひゅー👑)

さらには、



こんなことや、



こんなこともしながら登ったり、



こんなところも歩いて、再び稜線を目指す。山頂に近付けば近付くほど、



高山植物が咲き乱れ...

稜線に出てからちょっと引き返せば、そこが独標 (P10) 📍📍

実はここで 15:35。

この先、槍ヶ岳は無理でも、せめて北鎌平までは進もうか、という話も出たが、3人の体力を考え(→というより疲労がたまっている)、ここでビバークすることにした。

一日中足場の悪い中、大天井ヒュッテから 800m 以上も下り、北鎌沢の急登を 700m 登り返し、さらに北鎌尾根を 500m は登ってきたのだから、みんな頑張ったよ 👍

そして、一日で槍ヶ岳まで歩き切るとするのは、本当に健脚で体力のある登山家を指すのであり、おれらはまだその領域に達していないということを痛切に思い知らされる。

(それなのに、もし今日中に槍ヶ岳にたどり着いていたなら、翌日 Yさん達は常念岳へ、おれは笠ヶ岳へという計画まで立てていた。なんとまあ身の程知らずだったことか...。恐れ多くも山の神様、お許し下さい m (__)m)

でも、独標(2899m)にツエルトを張って寝る。これだって、実はなかなかできない体験なんじゃない!?



一夜限りの『ヒュッテ独標』

(しかも、槍ヶ岳山荘の宿代が浮いたね～👛)

岩場に囲まれた独標山頂は、平らでテントを張りやすそうなスペースがあったが、おれらはあえて、岩場の北側の草むらの上にツエルトを張った。こちらの方が風よけになるように思え、また下が草むらなので温かいかもしれない、という推測のもとに決めた。

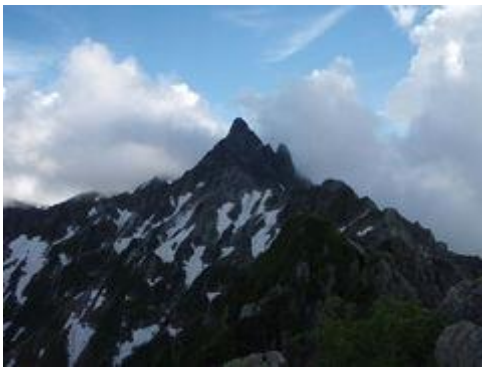
Ｙさん達は、これまでテント泊をしたことがないそうで、特にＫさんはやけにはしゃいでいた。野営デビューが2899mの独標だなんて、ものすごく記念すべきことですよ～✨

夕食は、非常食として持ち歩いていたラーメンともち、それにおれが秘かに忍ばせていた崎陽軒のシウマイを食べる。贈答用の真空パック、何気に山でも使えます💡

夕方、この日も360度のパノラマ。



本日登ってきた北鎌尾根。



明日、進むべく北鎌尾根、その先に聳え立つ槍!!

半月はくっきりと浮かび、今夜も星空だった。

つづく。

北鎌尾根③ [編集する](#)

2010年07月30日 02:48 [友人の友人まで公開](#)

18 view



《画像 1》 登りよりも慎重に足を進める、下り。



《画像 2》 北鎌平。



《画像 3》 左手に握っているのは岩場から垂れ下がったロープ。果たして、このロープをどこまで信じていいのだろうか...!?

【7月19日(月)】

昨晩は、やはり稜線上で風が強く、さらに追い打ちをかけるように、時々ツエルト内の水滴が顔にぽたっと垂れてきて...おれはほとんど眠れなかったが...😓

3:30 起床。

水が、ない...💧💧

いや、ないわけではない。昨夜の夕食から、3人の持っている水の量を確認し、計画どおりに使った。そのため、朝食のうどんは、水をけちったせいで、ちょっとしょっぱかった(笑)。

それでも最終的に残った水が少ないと実感。(→おれ個人用は、朝食終了時点で、残量が750ml...) 暑く

ならないうちに、距離を稼がねば!! と自分に言い聞かせ、今日も元気に行ってみよう👉



朝から天気がいい。



富士山も見える。



本日のメインディッシュ。

4:50 撤収もスムーズに終わり、いざ出発!! 🍗

それにしても、やっぱり、独標で一泊してよかった!! というのが3人の一致した結論。正直、昨日の疲れた身体で険しい岩場を歩き続けていたら、途中で大きな事故を起こしてしまっていたかもしれない...



独標を後にして、まずは足場の不安定な下りから...

ここからは、ルートファインディングの能力が必要だと言われていた。要は、どこを歩くかは自分で決めなさい、ということ。



基本は、稜線を歩くのがいちばんだが、稜線は切り立っており、千丈沢側にもところどころにトラバースルートがついている、との事前情報を得ている。

こういう情報を耳にしてしまうと、自然にトラバースを探してしまう。それが逆に命取りになってしまい、行き詰まることもあったので、稜線に上がれる時は上がってしまおう、これも3人の満場一致な結論💡

と言って稜線を歩き始めると、P11の山頂へのとりつきが非常にわかりにくく...🧗

でも、こういうときは思い切って、ピークめがけて岩場を登りつめれば、その先にトレースがついている、なんてこともあったりで...✨

何だか冒険心がくすぐられた👣



6:00-6:15 小休憩。腹が減っては戦はできぬ!!

昨日はだいたい、Yさん、Kさん、wwの順番で歩いていたが、今日はYさんとおれが、交代で先頭を歩いていた。というより、要所要所でルートを見極めるために二人で別々のルートを歩き、その度に先頭を交代するといった具合。



トップを歩くのもなかなかおもしろかった。これぞ北鎌の醍醐味!?

もちろん、トップだけがルートを見極めるわけではなく、後方から Y さんもいろいろと指示をくれたりもする。それで安心して登り始めると...、実はそれを信じたがために、ろくでもない結果になることもあったりしたが...💧💧💧 (→なので、一度は心底、Y さんを不信に陥る事件も発生したけど💣😓)

でも、やっぱり楽しかった👆👆👆

ルート選びはややテキトーで、岩場をよじ登るのは正直得意ではないが、北鎌尾根を歩いている、そう実感することが嬉しかったのだ👏



7:30-7:40 小休憩その 2

その後はしばらく千丈沢側のトラバースを歩く。

稜線から離れてしまったので、いつの間にかに、P13、P14 は通過していたと思う... 🦋

そろそろ北鎌平ではないかと思われるところで無理やり稜線に上がると、北鎌平はまだまだ先だった、なんてこともあったけど... 🤔

終盤近くなった頃には、



K さん:「もしかして、あのルートがいいんじゃない!？」

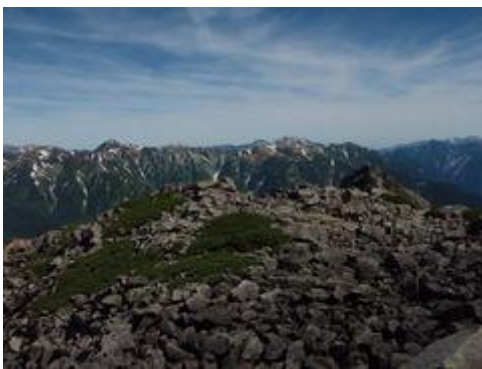
ww:「これって、何だか登山家になったみたいな会話ですよ」

ははは、いまさらかな!? 🤔

そして、



黒い大きな岩場を登りつめてから現れたのが!!



8:50-9:25 北鎌平。テントが張れるほど平らなスペースあり。

ここにレリーフの埋め込まれた大きな岩があり、その岩の裏に、Yさんが、これまで行動を共にしてきた大切な山仲間の遺灰を大切に置く。



そしてそのそばに、Yさんは線香代わりのたばこを並べた。

こうして、Yさん達の目的が無事に達成されたのであります。故人のご冥福を、心よりお祈り申し上げます🙏🙏

そして残るは…、



待ってるよ、槍🔪

9:25 出発。ここからがまた急な登りとなるが、



岩場をおかまいなしに登りつめる。



ただそれだけ。槍の中腹まで来たところで、一度攻め方を迷うが、どちらから登っても上にはつながることもわかり、3人がばらばらで登ることもあった👍

最後の難所として現れたのが「チムニー」と呼ばれる垂直に近い岩場。



はてさて、どこをどう詰めようか!?! 😬



とりあえず、登り始めると、一度左側に身体を寄せれるポイントがあった。ここで左側に身を寄せたはいいものの、再び直登するには、身体を右側に移動させなければならない。そして目の前には絶妙な場所にハーケンが打たれ、短いロープが垂れ下がっているのだが…。

このロープに全身の力を預けた時……、

ロープがハーケンごと抜け落ちたら…… 🤔

そんな恐怖感に襲われ、先に進めなくなってしまった 🤦



それを見かねた K さん。



K さんは、おれがいる左側のポイントを使わず、ただただ上を目指して、直登を決め込む!!



Kさんが近付いてくるので、なおさら左側のポイントに身体を寄せ、態勢を確保するww。



Kさん、登る!!



登る!!!



登る!!!!



Kさん、wwを抜かして登る!!!!



Kさん登りきったー👏👏

これを見せつけられたら、wwもここは勝負を決め込むしかないでしょう(手に汗握りながら...)👏💧



結局、左手で垂れ下がったロープに一瞬ぐいとぶら下がった後、右手でホールドを見つけ、その勢いで足場も確保。



Kさんが登った軌道にまで辿り着き、



あとは無理やりよじ登る👍

結局、ハーケンが抜けないほどに打ち込まれていたのだから、垂れ下がったロープも信じて使えばよかったのだろうけど。。。これ、自分の恐怖との戦いだった。

その後、Yさんも無事に登ってきて、ああよかったと思ったら...😓

なにやら、さらに垂直な登りが...💧💧 まだまだチムニーは続くのであった。。。😓

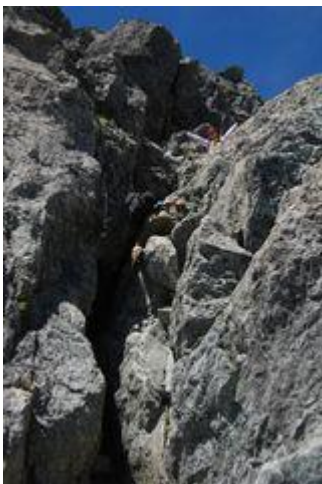
いざ、第2弾のチムニーを登り始めるが、どうにもこうにも恐怖心がちらつく。しかし、ガイドブック情報で、チムニーを直登せず、右側からトラバースするルートがあることが頭によぎり、おれはそちらのルートを選ぼうと一度下りる。(だって、せっかくトラバースを用意して下さった先人の方がいるんだし...。😓)

すると、ここでまた度胸を見せたのがKさん👏👏 ここまで来てチムニーを登らないわけにはいかないと意気込み、



これを見せつけられてしまっては...😓 ううっ💧

はい、ww も続きます👉



今ここで足が滑り落ちたら...、握っている岩場がはがれたら...という恐怖心が常に頭をちらついていた。息が詰まる。ただでさえ空気が薄い場所なのに...。心拍数だけが上がっている。

しかし、三点支持が原則だとしたら、膝も駆使して(!?)四点支持の格好にもなった。どう考えてもきれいな登り方ではなかっただろうが、上からは K さん、下からは Y さんの視線を感じながら、どうにかこうにかして、登りきったのである。



任務完遂!! 🙌

ここを登れば山頂は近いのか!? そう思いながら、登りやすい岩場に沿って登り始めたら、ちょうど角度が変わったところで、



山頂から遠方を眺めている登山客がいる!! その登山客とおれの目があった💡💡

「今行きま〜す!!」と手を振って叫んでみたが、その人は、やけに不思議そうな顔をしていた。そりゃそうだよね、このルートを知らない人がおれらを見たって、どう考えても道迷いしたか、相当物好きな登山家が登ってきた、くらいにしか思われぬよね!? 😬

でも、間違いなくそこに山頂がある!! そう確信でき、ここで思わずうろるときってしまった 😬

そして、最後の岩場を登りつめると、そこにあったのは💡💡



あの、山頂の祠だ!! ✨

10:35 槍ヶ岳山頂!!

祠の下から顔を出すと、先程目があった登山客はすでにおらず(やはり、怪しまれたか!?), 代わりに別の登山客 3 名が仰天した目でおれを見ていたけれど、もちろん第一声は、山でおなじみの「こんにちは🏔️」

この 3 人は、全く北鎌尾根のことを知らなかったそうだが、地図を見せると一緒に喜んでくれた。やがて、あとから登ってきた K さん、Y さんも感動ひとしきり。



やったね😊



そして、ここから再び見下ろす北鎌尾根。昨年見た景色と全く同じだけど、ココロの中にあるものは、全く違う✨



と、いつまでも感慨にふけてはいられない。
(というより、ここで急に現実に戻る。)

正規の登山道から登ってくる登山客が後を絶たない。彼らは彼らで、もちろん槍ヶ岳登頂に大喜びしている。一生に一度、立てるか立てないかの槍ヶ岳に登頂したのだ!!

その姿を見ていたら、なぜだか、ヘルメットを着けてるおれが、妙に場違いな気がしてしまって…。早くその場を立ち去りたい気分だった🤔 (逆にいえば、今日は誰にも会わず、貸し切り状態で北鎌尾根を歩いてきたことを、ここにいるみんなには秘密にしておきたい、自分のココロの中にだけ閉まっておきたい、そんな気分!?)



ここからは登山道を使って槍ヶ岳山荘まで下りる。今までさんざん岩場を登り続けてきただけに、この下りがけっこう怖かったりもしたけれど…。

11:05 槍ヶ岳山荘着

山荘にて、ビールで乾杯 🍷🍺

本当に、本当に(!)、お疲れ様でしたー 🍷

と言いながら、もうちょっとだけつづく…。



《写真1》 槍沢ルート



《写真2》 松本城と河童



《写真3》 受け継がれたもの

さて、もう少しだけ。後日談を。。。✍️

槍ヶ岳山荘からは、当日中に上高地へ向けて下山。槍沢ルートは、かなり長い雪渓が残っていたが、そんな中、噂には聞いていた「シリセード」を初体験💯



要は、大きなビニール袋を尻の下に敷いて、滑ってるだけ。

これ、いいね〜👍 傍から見れば格好悪いし、ズボンはおもらしたように濡れ、しかもお尻は冷たくて痛かったけど...😓

でもとにかく楽しんで、面白かった。これで標高 600m は稼げたかな!!✌️

雪溪がなくなってからは、上高地まで例によってダラダラとした下りの長距離ルート。それでも、しゃべりながら歩けば気にはならない。19:20 に上高地到着だったけど(→日照時間が長くてよかった。)、明神館で予約を入れておいたタクシーに乗って、松本へ🚗👉

ビジネスホテルに泊まり、その一室で3人で反省会兼打ち上げ~!!🍻

今日一日、本当に長かったけど、充実した一日でした😊✨

「また、北鎌尾根を歩きたいか!?!」

正直、今回が最初で最後のつもりで歩いたけれど...

でも、険しい岩場の恐怖感を忘れないようにするために、歩き続けるもありかな、そんな風にも思った。もし2回目の機会があれば、もう少し余裕があるはずだよな!?💡

翌日は予備日があまったので、松本城を観光👉 3連休は城内に入るのに3時間待ちで、中は蒸し風呂状態...、という話を聞いていたが、この日は平日で、ゆっくり見ることができた。400年以上前の建造物が、今も形を残しているのは、本当に素晴らしい!!✨👍

また、敷地内にある資料館は、松本の歴史や、昭和初期頃までの日用品(レトロな電化製品等)がたくさん展示され、見ごたえたっぷり💡

その後、信州そばを食べ、Yさん&Kさんと別れる。また、次の再会を願って。本当にお世話になりました

&ありがとうございました🙏

2010年夏山、もうこれで終わった気分😓

それから1週間後。Kさんから連絡をもらう。

おれらが北鎌を歩いた前日に、実は遭難事件が起きていたそうで、行方不明者は、かなり山慣れしている20代後半の単独登山家、とのこと。。。

ネットで調べ始めると、行方不明者を呼び掛けるサイトが多数あり、捜索隊も組まれた様子。おれらとは入山時間がずれているので、結果的には会わないはずだけど、一応おれらの当日の状況を、関係者には連絡した。

他人事には思えない事件だった。

現段階で、捜索は一度打ち切りになったようだが、一日も早い解決を願ってやまない。。。

と同時に、おれらが北鎌を踏破できたことに、後味の悪さを覚えつつ、それでも無事に下山できたことは、運がよかったのだと自分に言い聞かせる😓

他方、嬉しい情報もあった。

ネット上で、同日に北鎌を歩いた人のブログにもたどり着き、おれらが当日出会った人たちの足取りがわかったのだ👁️👁️

独標でビバークした日、独標よりも下の場所(独標とP9の中間点くらい)で二人組がテントを張っているのが見えたけど、それが実は、最後に貧乏沢で見かけた白ひげ二人組だったらしい。(→ということは、彼らは天上沢か、北鎌沢で迷ったのか!?)

軽快に歩いてた単独女性は、結局、北鎌平でビバークした様子。

中房温泉 3人組の話題が見つからないということは、彼らのことだから、あの日のうちに無事に槍ヶ岳山頂まで到着したに違いない💡

このブログの作者は、前日に高瀬ダムから入山、湯俣から天上沢をさかのぼり、北鎌沢から北鎌にとりついた様子。そんな人もいるんだ💡 (→この人とは独標で16:30頃会う。彼はその後も躊躇せずに歩き続け、結局北鎌平でビバークし、翌朝に槍を登頂!!👍)

一期一会のはずだった登山客の様子がこうしてわかるのも、ネット時代ならではの強みかもしれない。(何だか話がそれたけど、ネットはこれからも有効に使っていきたい💻)

登山家みんなに、それぞれのドラマが残る。

北鎌、バンザイ💡

